Seishin Campus 217



おもな記事

平成30年度卒業式式辞 退職教員挨拶 新卒業生に聞く 聖心女子大学が歩んだ70年 一学生たちの笑顔とともに

Topics 聖心グローバルプラザ便り 学寮 Life 学寮中央棟完成 他



聖心女子大学

University of the Sacred Heart, Tokyo



平成30年度 第 69 回 卒業式式辞

聖心女子大学長 岡崎 淑子

本日、聖心女子大学第69回卒業生となる皆様、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様にもこころよりお慶び申し上げます。これまでの本 学へのご理解ご支援に感謝申し上げます。

学生生活を終えて、新しい生活をスタートさせる皆さま、現代は、たくさんの新たな可能性、明るい未来を秘めている一方、予測不可能で変化の激しい時代であり、皆さんは希望とチャレンジに満ちた世界に飛びこんでいらっしゃることになります。誰かが作ってくれる社会ではなく、皆さんこそが、社会の担い手となる時です。社会の現実を見て、明るい希望や暗い現実に気づいた時に、その"気づき"を"他人ごと"に終わらせず、"自分ごと"として関わっていくことです。より良い方向に発展させていく、または変革させていくチャンスであり、自分には何ができるかを問いかけてください。

さて、現在、本学4号館/聖心グローバルプラザでは「武器をアートに」という特設展示を行っていますが、ここに"自分ごとにしていく"ということの一つの例があります。

アフリカ南東部のモザンビークでは、1975年にポルトガル植民地から独立後16年間、冷戦下の代理戦争ともいわれる内戦が続き、1992年内戦終結後も武器を保持している人々が多くいました。そのような中、武器の回収が始まり、農具をはじめ、自転車、ミシン等の生活用品と交換して回収することが市民の手で行われて武器の放棄が進み、村の生活の向上にもつながりました。回収された武器は爆破処理、または切断されましたが、切断された武器のパーツを使って地元の村のアーティストが平和を象徴するアート作品を制作し、そのうち20余の作品が日本に送られて、大阪の国立民族学博物館と、四国のNPO法人"えひめグローバルネットワーク"で所蔵されています。その中から7体を現在本学で特設展示しています。一つひとつの作品は、実際に人を殺傷した銃の銃口や引き金や銃身などを組み合わせて作られており、Made in Soviet, USA, UK, China 等の文字もあり、これらの武器が世界各国から提供されたものであることが見てとれます。

作品には「本を読む人」「カサ(傘)をたたむ人」「フルートを吹く男」「肘掛椅子」などがあり、どれも何気ない生活の場面に見えます。しかし、モザンビークの開発・発展への協力のために現地の人々と関わってこられた NPO 法人 "えひめグローバルネットワーク"の代表理事、竹内よし子さんから武器アート一つひとつの意味を伺った時、"何気ない日常生活の場面"などとはとても言えない深い意味があることを知り、モザンビークの人々や竹内さんの活動から「他人ごとではなく、自分ごととしていく」ことについて深く考えさせられましたのでここでお話ししたいと思いました。

内戦の間学校に通えなかった人たちの識字率が極めて低いが、今は、字を覚えて本を読めること、クラスター爆弾の細かい破片が降って来て首に刺さるのを避けるために使った傘を、今はたたんで青い空を見ることができるようになったこと、内戦の間に没収された楽器を今は自由に奏でられるようになったこと、敵の襲撃を恐れずに、ゆったり肘掛け椅子に座ってくつろげることなど、内戦におびえ、苦しい生活を強いられてきた人々にとって、平穏な日常生活を送ることが"何気ない"どころか、特別なことであり、どの作品も安心した生活、平和の喜びを象徴するものです。

武器を放棄することを恐れていた人が武器を自転車と交換した時 に見せる嬉しそうな表情を現場で見てこられた竹内さんは、地元松 山市内にある大量の放置自転車をモザンビークに送れないかと思いつき、市内の放置自転車が NPO や NGO に無償譲渡できるよう松山市に提言します。やっと交渉が成立した時、放置されていた自転車をきれいに磨いて現地に送れないかと考えます。市内の小学校に呼びかけて子どもたちの手できれいに磨く活動が始まり、ピカピカに磨いた自転車をモザンビークの村に届けることができました。子供たちがモザンビークという国に興味をもって学ぶきっかけとにもなりました。

3年間に660台の自転車がモザンビークに送られ、村と村の交通が便利になって、情報交換や交流も盛んになり、あきらかに生活が改善しました。竹内さんは、地域に公民館を立ちあげたり、女性たちがミシンを使って縫製の仕事ができるよう指導もされてきました。

武器の放棄を躊躇する人々から、生活用品、自転車、ミシンなどと交換することで回収する運動が、モザンビークの住民自身の手で進められ、安心できる生活が村のアーティストによって武器から平和を表す作品が制作される現場を直接目にされた竹内さんは、講演会や大学の講義、また武器アート展示の折に作品の意味を紹介し、争い、戦うための武器を二度と作らない平和な世界を熱心に呼びかけておられます。

こうしたら良い、こうしたらもっと良い、と次々知恵を働かせ、他人と協力しながら行動する過程で多くの「面倒なこと」に遭遇しながらもこれらをクリアしていくエネルギー、それは聖心の教育コミュニティーで「聖心のスピリット」と呼んでいる実践の在り方と共通であり、物事に「自分ごととして関わる」ときに出会う問題を面倒とも思わず、いわば楽し気にやりぬいてしまう実践力、と言えるでしょう。聖心のコミュニティーに限らず、同じスピリットを徹底して生きている人々からも私達は学ばなければなりません。

現代社会のさまざまな課題に出会ったときに、"他人ごと"で素通りせずに、"自分ごと"として関わるために、交流や協力を通して目指すものをかたちにしていく実践を小さなことから積み重ねていくことを、これからの生活の中でどうぞ大切になさって下さい。

最後に旧約聖書のことばで皆さまをお送りしましょう。

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。 主が御顔を向けてあなたを照らし、 あなたに恵みを与えられるように。

[民数記6章24~25]

ご卒業おめでとうございます。



ご退職の 先生方から





史学科 佐々木 隆 先生

私が本大学に職を奉じたのは昭和60年4月のことなのでこの春で満34年、 ちょうど人生の半分を聖心で過ごしたことになる。その年の4月1日に各部局 に挨拶回りをしていたところ、図書館玄関付近でいきなり不審者扱いされ、こ れからどうなることやらと思ったが、何とか大過なく定年を迎えることが出来た のは皆々様のお引き回しのたまものである。奉職に際しては本学の長老であ る目崎徳衛先生から〈聖心の学生の中から学界で十分に通用する人材を育 て、君の後任は自前の人材を当てられるようにして欲しい〉と言われ、当時 の内山学長からも学長招待の歓迎会で同様の激励を受けた。爾来、人材 の養成に微力を尽し、一定以上の成果を挙げて来た積りだが、必ずしも顕 然とした形をお二人にお見せできなかったのが残念である。34年の聖心での 研究生活では前半では沢山の論文を書かせていただいたが、後半では老 母の看病・看護・介護に追われ、思うに任せなかったのが心残りだ。各種 の会議で不義理を重ねてしまい汗顔の至りだが、御寛恕いただけて感謝の 至りである (ここが聖心のよいところだ)。その代わり、教材作りには心血を 注いだので、学生諸君には喜んでもらえたと思う。いづれ本にして多少なりと も本学に寄与したいものと考えている。聖心女子大学の弥栄の豊栄、八重 栄の千代栄をお祈り申し上げる。



人間関係学科 高木 秀明 先生

2年間という短い期間でしたが、カトリックの女子大学での専任教員という、初めてのとても貴重な体験をさせていただきました。研究室は、天井が高く伝統のある大学らしい2号館と現代風の4号館の両方を体験しました。2号館の廊下を歩くときの床板が鳴る音には味わいがありました。

人間関係副専攻演習1 (自我・自己の心理学)では、受講生の個人史を振り返ってもらい、聖心女子大生についての理解が進みました。ゼミでは必ずしも毎回真面目に卒論研究に取り組んだとは言えないところがありますが、それぞれのペースで準備を進め、自分が取り組みたいテーマを追求し、全員がそれなりに納得できる卒論を仕上げました。

所属した学生委員会では大学がいろいろな形で学生をサポートしていること、また、学生がいろいろな方面で活躍していることを知りました。 教職員と学生が力を合わせて大学を良くし、学生を伸ばしていこうとする 熱意と行動力を感じました。

人間関係学科の先生方、副手の方々にはとても親切にしていただき、 大変お世話になりました。ゼミ生を始め、学科の学生とは楽しい話がで きました。私の人生における貴重な2年間を与えていただいたことに心か ら感謝申し上げます。



教育学科 北村 和夫 先生 『評価・大学院担当副学長》

私は、1982年以来、37年間にわたり本学にお世話になってきました。 大学院の学生から直接大学の教員となり、何かと無案内でしたが、大 学の皆様は温かく迎え入れてくださり、お蔭様で無事、勤め上げるこ とができました。長年のご厚情に心より御礼申し上げます。

教育学・教育史が専門ですが、マグダレナ・ソフィア・バラと聖心女子学院の教育理念には感銘を受け、大学教育の場で具現化し、継承・発展させることを課題としてきました。「大学の理念」(1996年)の起草委員の一人に選んでいただいたことと、『聖心女子大学1916~1948~1998』を担当執筆したことは大きな名誉です。学務部長の時には基礎課程演習の全員必履修化、総合現代教養と副専攻制度の立ち上げに関わることができ、副学長(評価・大学院担当)としては、内部質保証体制の確立と大学院制度の整備に努め、大学のグランドデザインも手がけさせていただきました。まさに悔いなし、といった心境です。

しかし、最も楽しかったのは授業や合宿を通じての学生指導であり、 特に卒論では聖心の学生さんの底力に驚かされました。今後、社会で 聖心スピリットをぜひ発揮していただきたいと期待しております。大 学の益々の発展をお祈り申し上げます。



教育学科 高田 遵湖 先生

40年間にはたくさんの思い出がありますが、キャンパスの美しさは ひと際印象的です。20世紀までは、築山やパレスの前の樹木は、ボラ ンティアのご高齢の方が念入りに手入れをされていて庭園のようでし た。また、正門から続く桜並木は、天を覆う老木群になりましたが、 当時は精悍な黒い幹に咲く絶景のような桜でした。初めて大学を訪れ たのは、27歳の時です。それ以来人生の諸先輩に無言の教えをいただ き今日に至りました。特に印象的な方には、眼鏡の奥に知的な厳しさ を備えていらっしゃった教育の(故)橋口菊先生、素敵なスーツに身を 包み、颯爽とした優しさと品の良さ、厳しさを合わせもった(故)島崎 陽子先生、風格のある(故)小堀玲子先生、毅然としてシャープな青木 怜子先生、聖心の心を教えてくださったシスター田中玲子先生やシス ター方がいらっしゃいます。鮮明な想い出は彼方に輝いています。す べては懐かしい思い出です。教員・職員の皆様、お世話になりました。 ダンス部のみんな、「お別れのありがとう会」を踊ってくれてありがと う。聖心女子大学のさらなる発展を楽しみにしながらお別れしたいと 存じます。





英語英文学科安田 侑加

SHRET (2年間)

大学2年生の時に参加したスリランカスタディツアーです。豊かな自然や現地の方々の温かさに触れ、持続可能性とは何かを深く考えさせられました。

教職員の方々と学生の距離が近いことです。授業でテーマを存分に掘り下げることに加え、授業の枠を越え、さらなる成長の機会を数多くいただき、濃密な学びの時間を過ごせました。

大学の4年間は、自由で貴重な時間です。 たくさんの人、挑戦の機会と出会ってください。同時に、友人と本音でたっぷり語り合え る時間があるのも学生の特権だと思うので、 そのような時間や友人も大切にしてください。

大学の授業で知った教育分野の概念をさら に専門的に学ぶため、海外大学院に進学す る予定です。私にとって大きな挑戦ですが、 大学での学びを糧に精進いたします。



日本語日本文学科 小嶺 リサ

所属なし

日本語教員課程を履修しており、言語に関して多く学んだ4年間でした。印象深いのは外国人に授業を行った実習です。実際に教えることは難しくもありましたが良い経験となりました。

一人ひとりをきちんと見てくれる点です。 ゼミや演習が少人数ということもあり、先 生方がとても親身になってくださいます。 また、副手さんもいつも温かく迎えてくだ さいます。 3 自分の時間を有意義に使える4年間ですので、勉強はもちろんのこと、趣味やバイトなど自分のやりたいことを行い、何事にも一生懸命に取り組み、悔いのない学生生活を送ってください。

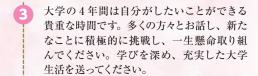
4 台湾へ語学留学する予定です。4年間学んできた語学に興味があり、他言語も学びつつ、日本語教員としても活躍できればと思っております。



哲学科 太刀川 菜緒子

クリケット同好会 (2 年次まで) 素晴らしい出会いに恵まれた4年間でした。様々なことに挑戦し、自分が学びたいことに没頭することができました。3年次の留学で得た知識を卒業論文で活かせたことに最も充実感を得ました。

聖心女子大学は少人数であり、先生方から 細やかで丁寧なご指導を受け、自分が学び たいことを深めることができるところが一 番の魅力であると思っております。



時計をはじめとするブランドの事業展開を サポートしている会社に勤める予定です。 学生時代に力を入れてきたことを活かしつ つ、情熱と好奇心を持ってとことん挑戦し ていきたいと思っております。

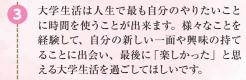


史学科 鈴木 彩加

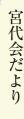
聖心祭実行委員会 (内渉セクション)

一元々好きだった日本史に加え、博物館学にも出会うことができ、学ぶことの楽しさを知ることができた大学生活でした。また信頼し合える友達もできたことで、本当に充実した4年間を過ごせました。

大学は高校では学んだ事のない新しい学問 分野もあります。2年次に学科選択がある ことで、自分の興味のある分野を受けてみ てから見極められるところがとても魅力的 であると思います。



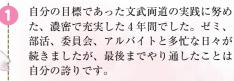
卒業後は、國學院大學大学院へ進学し、博物館学を学びます。大学で学芸員資格取得のため学んだ博物館学をさらに深め、将来博物館学芸員として働けるように努力して行きたいと思います。

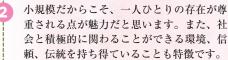




人間関係学科 田中 杏実 バスケットボール部

聖心祭実行委員会 (ラッフルセクション)





- 充実した大学生活を送るのか、なんとなく4 年間を過ごすのかは自分にかかっていると思 います。自信と誇りをもって卒業できること を、一人の先輩として望んでいます。
- 総合電機メーカーに就職します。学科で学 んだ社会心理学や、課外活動での多くの経 験を活かし、自分らしさを失うことなく、 必要とされる社会人となれるよう努力致し ます。



国際交流学科 徳橋 りの

SHRET

- 自分が関心を抱いていたアンコール遺跡に ついて、講義やゼミを通して様々な視点か ら追求し、卒業論文へと繋げていきました。 初志貫徹させることができたことはこの先 の自分にとっても大きな糧となりました。
- 先生方の丁寧なご指導や重要文化財である パレスや自然などの恵まれた環境で学校生 活を送ることができる点です。また副専攻 や交流学生制度なども充実しており、魅力 だと思います。
- 私自身大学で貴重な経験を沢山させて頂き ました。学生生活は自分の興味関心を行動 に移す絶好の時期ではないかと思うので、 自分らしい充実したものにしてください。
- 海運会社に就職致します。学生生活で身に 付いた国際的な視野や、周りとの連携力、 感謝の姿勢を忘れずに、様々な経験を通し て成長していきたいと考えています。



心理学科 大道 徳子

年鑑編集委員会

自分がやりたいと感じたことに積極的に挑 戦したことです。委員会活動や大学の勉学 に加え、長期インターンの参加、主体的な プログラミング学習を通じ、新たな分野に 挑戦し続けた4年間でした。

学科専攻に関係なく、興味関心のある学問 を受講できる点です。私自身、他学科のプ ログラミング学習やメディア論の講義を履修 幅広い学問を学ぶことができました また、大学ではボランティア活動が活発なた め、奉仕の心を育む環境があります。

大学の勉学はもちろん、課外活動やインター ンなどを活用して、ぜひ学生時代のうちに自 分が熱中できることを追求し、充実した4 年間を送って下さい。

産業用間接資材の通信販売会社で WEB エ ンジニアとして就職します。プログラミン グスキルと心理学の知見を活かして、サイ ト機能向上に貢献できるよう精進して参り ます。



教育学科 教育学専攻 谷口 美月

ーケストラクラブ

ラクラブで部長を務め、学外ホールでの演奏 会を成功させられたことです。クラブ活動と学 業の両立は決して楽ではありませんでしたが、 充実した4年間を過ごすことができました。

大学生活で一番の思い出は、本学オーケスト

毎日の授業や、卒業論文制作などにあたっ て、学生一人ひとりが先生方のきめ細やか なご指導を受けられることが、少人数制を 重視している本学ならではの魅力だと思い ます。

学業、クラブ活動、アルバイト等、「学生時代 はこれを頑張った」と胸を張って言えることを 一つでも作ってみてください。その経験が自 分の中の引き出しを増やし、社会人になるた めの基礎を身につけることに繋がると思います。

卒業後は鉄道関係に就職予定です。教育学 科では子どもに関する知識だけでなく、人 との関わり方そのものを学ぶことができま した。入社後も教育学科で得た、柔軟に学 び続ける姿勢を忘れずにいたいと思います。



教育学科 初等教育学専攻 佐藤 萌百子

M.S.S.S. 手話・すみれセクション

視野を広げ、何事にも挑戦し続けた4年間で した。東日本大震災復興支援活動で現地に足 を運び、地域の方々の声に耳を傾けることで メディアでは伝えきれない震災当時の様子や 復興の現状に触れました。助け合い・支え合 いから生まれる絆を通して全ての出逢いには 意味があることを感じると共に、前を向く勇 気と信じる強さを持ち、次の世代へ伝えてい くことの大切さを学びました。

人の温かさです。生徒を信じ、力強いお言葉 で背中を押してくださる先生方や喜怒哀楽を 分かち合い、励まし合える仲間は私の誇りです。

大学生だからこそできることがあります。時 間を有効活用し、自分がやりたいことに挑 戦すること・人との繋がりを大切に、充実し た学生生活を送ってください。

青森県の小学校教諭として就職します。「も もこ先生と過ごす学校生活が楽しい」と子 どもたちが思えるよう、児童一人ひとりに 寄り添い、良さを引き出すことができる教 員を目指します。

のでお手元に届きましたらご覧くだ 代会ニュース」に記載しております 動を通じて行っています。 部生2名)、 会を通じて世代を超えた交流の場と 通し会員 学金」(公募2名)を給付しています。 な学部生2名)、「宮代会奨学金」(学 してご利用 エリザベス・ブリット基金奨学金 皆さま」 これらの活動報告は 宮代会会員を支援する「さくら奨 、優秀な大学院 宮代会活動にご参加、 同窓会誌 社会貢献は、会員から寄せられた 「宮代会特別奨学金」(学業優秀 済的支援を必要とする優秀な学 校への協力としては在学生対象 古切手の整理運用、 拡 大製本、 の親 の欄にも随 「宮代」、4月発行 いただいております また卒業後再び学びた 睦の 生1名に2年間 縫製奉仕 場として、 毎年1月

点字サ

などの活

0) 発行

共に日 とうございます。 外にも5支部 変嬉しく思います。 も繋がっています ご入会いただいた聖心女子大学同窓 ンバーです。国内には13支部、 回生としてお迎えできることを大 A M A S C 新卒業生の皆さま、ご卒業おめで 宮代会は「会員の 宮代会は、終身会費 |本聖心| 国内の姉妹校、 現在: 同窓会 あり、 約2万8 皆さまを宮代会第 員として海外に J A S H 界聖心同 千人 を 8 納入して 同窓会と 母校 八の会員 窓会

ご協力くだ 卒

http://www.u-sacred-heart.ac.jp

ろにある宮代会館を拠点として活動

色々な分野

Ó

お

各〇G 稽古を 大学構内南門を上がったとこ

協力」

「社会貢献

」を三つ

の柱と



授業風景 – 化学の実験(1952年ころ) 聖心女子大学蔵



2位(せいたい)行列(1959年ころ) 聖心女子大学蔵



授業風景(1961年ころ) 聖心女子大学蔵



寮生たちの憩いのひととき (1961年ころ) 聖心女子大学蔵



M.S.S.S. の三河島パーティー大学への 招待行事(1960年ころ) 聖心女子大学蔵



教室入口で教授を迎える当番の学生 (1963年ころ) 聖心女子大学蔵



東京オリンピック1964 – 駒沢陸上競技 場で(1964年) 個人蔵

聖心女子大学が歩んだ70年 学生たちの笑顔とともに



開学の年の合唱風景-クォンセット・ハット (カマボコ型兵舎) 前で (1948年) 個人 蔵

聖心女子大学は1948(昭和23)年に最初の新制女子大学の一つとしてスタートし、昨年、創立70周年を迎えました。この記念の年に、卒業生からの温かいご支援をいただき、9月の宮代祭(同窓会ホームカミングデイ)と11月の2度にわたり、大学の歴史を伝える資料の展示を行なうことができました。学生の活動に焦点をあてた11月の企画展示では、貴重な資料を間近に見た教職員はじめ大学関係者が、今までの歩みを振り返り建学の精神への理解を深めるとともに、この70年間に培われてきた歴史、伝統、絆をそれぞれの立場で未来への力とするよう、これからの道のりを静かに考える良い機会となりました。資料の提供など、ご協力くださいました皆様に感謝申しあげます。

開学式(1948年5月9日)の様子を伝える古い資料には、日本初のカトリック女子大学の誕生を喜び合い準備を進める高揚感あふれる学内の様子、感謝の思いとともに当日を迎えた様子が生き生きと記されています。今、様々に変化を遂げるキャンパスで、Bitter 師(イエズス会)が開学式の祝辞の結びとして祈りを込めて述べられた言葉 "Vivat, crescat, floreat! May this College live, grow and flourish!" を胸に秘めながら、学生たちとともに新たな歴史を刻んでまいりたいと思います。

管理部担当課長 飯田洋子

写真の無断複写・転載を禁じます。



L.L. (ランゲージラボ) での授業風景 (1984年ころ) 聖心女子大学蔵



トーチライトプロセッション(灯火行列) - 聖心女子大学の伝統行事(1987年ころ) 聖心女子大学遊

【グローバル教育環境整備募金】

「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性を育成する」という使命達成に向け、4号館(新棟)の整備、新学寮の建設など大規模なキャンパス整備を実施しています。このため、2017年1月より3ヵ年の計画で、皆様方からのあたたかいご支援をお願いしておりますが、このたび更に広く関係者各位のご支援を仰ぐため募集期間を、2021年12月まで2年間延長することといたしました。

■ご寄付の状況(2018年12月末日現在)

件数:696件 総額:209,719,569円

寄付者ご芳名(2018年6月~2018年12月末)

グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。 なお、ご芳名は掲載に同意いただいた方のみとなります。

【掲載要領】

- 1. ご芳名は、上記期間に寄付申込書のご提出とご入金の確認が取れた方々について、お送りした領収証の宛名に記載の名義で掲載しております。なお、敬称は省略させていただきました。
- 2. 金額掲載に同意された方については、金額別に五十音順で掲載しています。金額掲載に同意されていない方については、「ご芳名のみ」として五十音順に掲載しています。なお、芳名録への掲載に同意されなかった方につきましては、匿名として件数のみ掲載しております。
- 3. 団体・法人については、代表者等のお名前は省略させていただきました。

■6.000.000円

株式会社大林組東京本店

■1,000,000円

フジテック株式会社

■500,000円

株式会社三省堂書店

■300,000円

萱島 祐子 山口 佳紀

■266,378円

宮代会30回生同窓会

■200.000円

宮代会四国支部

■100,000円

税理士法人平河町鈴木会計 宮代会 北陸支部

小杉 依子

金子 美都子

古谷 佳代子

古谷 英宏

■50,000円

5 回生有志一同 聖心同窓会東北支部

野崎 廸子

■40.000円

宮代会 学寮 OG 会

■30,000円

熊野 眞弓 山本 幸江

■24,000円

宮代会 湘南支部

■10,000円

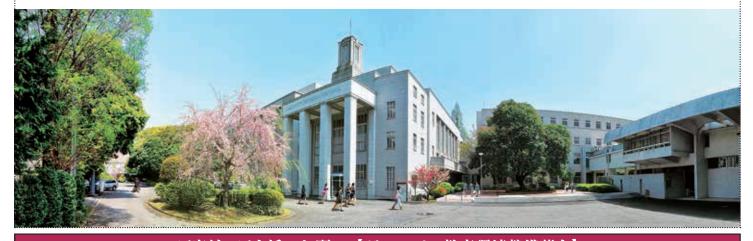
三田 惠美子桑田 富三子柴 桃子

■ご芳名のみ

北村 和夫神田 佐知子高村 治子医療法人社団萩野医院藤縄 裕之宮代会静岡支部川端 千鶴

■匿名 18件

五十崎 浩子



ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

【募金に関するお問い合わせ先】 聖心女子大学管理部財務課/電話:03-3407-5811(代表)

E-mail:e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

●寄付金ホームページURL: https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html (「聖心女子大学 寄付金」で検索してください)

※ Web 画面からの申込み・クレジット決済も可能です。



国家資格

公認心理師 受験資格取得のための カリキュラム開始

心理学科で 公認心理師 に必要な 科目を履修 卒業

① 大学院へ進学

公認心理師に必要な 科目を修めて修了

② 実務経験を積む

指定された施設で 2年以上(標準3年) の実務経験を積む 公認心理師 受験資格を 取得



本学では、2018年度から大学院における公認心理師対応カリキュラムを、2019年度から学部における公認心理師対応カリキュラムを開設します。

本学大学院においては臨床心理士 指定校として、長年にわたり多くの 心理臨床家を輩出してきました。こ れまでのカリキュラムを土台に、心 のケアを行う専門家の育成を学部と 大学院にて行います。なお、このカ リキュラムは、学部は心理学科の学 生対象、大学院は人間科学専攻臨床 心理学研究領域の院生を対象とした ものであり、他学科や他専攻の学生・ 院生は受講することはできません。 なお、本学は学部2年生から専門に 分かれるため、2018年度学部入学者 (編入生は2019年度入学者) から適 用となります。

公認心理師及び臨床心理士の仕事には、心理アセスメントや心理的治療が含まれ、学習やトレーニングには多くの時間と努力を要します。そのため、本学では上図の②のルートは推奨しておらず、学部3年間+大学院博士前期課程2年間の計5年間の学習・トレーニング(上図の①のルート)を前提としています。

本カリキュラムにおいては、演習・

実習科目に厳しい条件が課されているため、学部での履修につきましては、2年次の終わりに公認心理師カリキュラム履修希望者への選抜試験(GPA、筆記および面接による試験)を実施する予定です。

本学では、心理学科において公認 心理師カリキュラム、大学院におい て公認心理師カリキュラム及び臨床 心理士カリキュラムを履修し、公認 心理師と臨床心理士両方の受験資格 を合わせて取得することを推奨して おります。

神前 裕子(心理学科 専任講師)

聖心女子大学キリスト教文化研究所 2019年度教養ゼミナール開講講座一覧

学生・卒業生・一般社会人を対象として1971年より開講してまいりました「公開ゼミナール」は、2013年より、大学における生涯学習提供の一翼を担う「教養ゼミナール」として新たに出発し、より充実した生涯学習の場を提供させていただいております。 あらためて多くのみなさまの受講をお待ちしております。2019年度の教養ゼミナールは以下のとおりです。

| 教養ゼミナール名(担当者) | |
|------------------------|---------------------------|
| 世界の聖地紀行(吉澤 五郎) | アウグスティヌス『神の国』を学ぶ(加藤 信朗) |
| レクイエムの歴史(金澤 正剛) | 文学と人生 (鈴木 秀子) |
| 日本語で、『詩篇』を味わう(中井 純子) | アガペー研究(遠藤 徹) |
| シェイクスピア講読(道家 弘一郎) | キリスト教入門(荒川 博行) |
| ヨハネ福音書を読む(田邊 菫) | 日本の歴史・文化とキリスト教について(山崎 渾子) |
| 『源氏物語』「宇治十帖」を読む(原岡 文子) | キリスト教美術を見る眼(安發 和彰/高野 禎子) |

開講日時等詳細について

右 OR コードを読み取っていただくか、公式ホームページ並びにパンフレットをご覧ください。

※【予告】現在、2019年度オム二バス講座を企画中です。詳細が決定次第、公式ホームページでお知らせいたします。

お問合せ、パンフレットのご請求、お申込み

聖心女子大学 キリスト教文化研究所事務室 電話・FAX:03-3407-6089(平日10:00~17:00)

メール: kiriken@u-sacred-heart.ac.jp

公式ホームページ: http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/christ.html



第 18 回 カトリック女子大学 総合スポーツ競技大会



第18回カトリック女子大学総合ス ポーツ競技大会が12月15日(土)、 16日(日)に岡山県のノートルダム 清心女子大学にて開催されました。

会場校に加えて京都ノートルダム 女子大学、清泉女子大学、白百合女 子大学そして本学の5大学がスポー ツを通して大学間の交流と親睦を深 める目的で毎年開催されています。

次年度からは仙台白百合女子大学 も参加して、京都ノートルダム女子 大学にて、12月14日 (土)、15日 (日) に開催されます。



大会参加の少ないバドミントン部 では、このカトリック総合スポーツ 大会は1年間の集大成であり、また 昨年引退された先輩方に良い報告が できるようにと練習に邁進して参り ました。結果的にはバドミントンは 2位で大会を終えましたが、前回よ りもひとつ順位をあげることができ ました。スポーツを通じたチームワ ークや協調性だけでなく、他の大学 との親睦も深めることができ大変有 意義な時間を過ごせました。

今大会、開場校であったノートル ダム清心女子大学をはじめ全ての関 係者の皆様に感謝申し上げます。来 年度は今年をさらに超えるようなパ フォーマンスができるよう精進して 参ります。

> バドミントン部部長 浮島 こずえ



昨年度は、好成績を残すことがで きたので私達にとって思い入れの強い 大会であり、本年度も優勝を目指し-人一人が自分に厳しく練習に臨みまし た。しかし、今回は自分たちが持て る力を出しきったにも関わらず優勝を 逃し、2位という結果になり悔しい気 持ちで一杯です。しかし、今回負け たという経験は自分たちに必要な課 題を見つけることができる貴重な機会 となりました。来年度は前回のように チーム全員で優勝の喜び、感動を分 かち合えるように頑張って行きたいと 思います。

サポートしてくださったスタッフ、 OG、先生方、全ての皆様に感謝を申 し上げます。優勝に向け、今後とも部 員一同精進してまいります。

> バスケットボール部部長 木村 光里



2019年度からの聖心女子大学教学支援システム 「Sophie」のログイン画面が決定!

本学では、在学生に向けて 2019年度からの Sophie ロゴ マークを募集し、選定の結果 右記2名の作品を優秀作品と して選出し、表彰いたしまし た。表彰式では岡崎学長より、 日本語日本文学科2年 賞状と副賞が授与されました。

優秀賞:

国際交流学科2年 近藤 千晶さん(写真左)

佳作:

吉田 直子さん (写真中)



成人式ミサが行われました

2019年1月11日(金)、サレジ オ会の浦田神父様の司式のもと、 成人式ミサが行われました。神 と隣人への愛を説いた聖書が朗 読され、参列者一同で、新成人



のために祈りを捧げました。20人ほどの新成人の中に は、初めて学生ミサに参加した学生もおり、聖堂の落 ち着いた雰囲気の中で祝福を受けて、新たな力をいた だいたようでした。

マグダレナ・ソフィアセンター カトリックルーム Sr. 青木 由紀子

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる 学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部学生を褒章するものです。 平成30年度受賞者は、次の3名です。

> 英語英文学科 4年 金川 満瑠さん

史学科 4年 廣田 優里子さん 哲学科 4年 白田 侑子さん

聖心女子大学学長賞

聖心女子大学学長賞は、学術研究活動、課外活動、社会活動等で特に顕著な成果を挙げた学生 または学生団体を褒章するものです。平成30年度受賞者は、次の団体と個人に決定しました。

硬式庭球部

国際交流学科 3年 福井 春菜さん

*受賞者の言葉は、次号の聖心キャンパス第218号(5月下旬発行予定)に掲載予定です。



聖心会創立者 聖マグダレナ・ソフィア・バ $(1779 \sim 1865)$

聖心女子大学

グローバル共生研究所

Sacred Heart Institute for Sustainable Futures [SHISF]

〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-2-24

聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ

Phone: 03-3407-5811

e-mail:kyosei@u-sacred-heart.ac.jp https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp





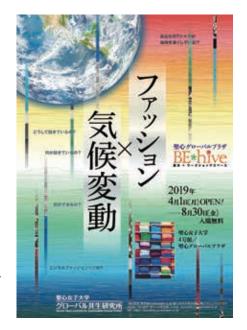
ッション×気候変動

2019年 4月1日 [月] -8月30日 [金]

聖心グローバルプラザ



入場無料



グロー

バル共生セミナー (2019年度開講)

ESD 実践講座



講 師:井澤 友郭 (こども国連環境会議推進協会事務局長)

(気候変動の専門家1~2人も特別講師として予定)

対 象:一般、教員、大学生

受講料:一般20,000円、大学生8,000円(本学学生割引有り)

SDGs ソーシャル・アクション・セミナー



講 師:山本 崇雄(都立高校教諭・未来教育デザイン Confeito) 山藤 旅聞(都立高校教諭・一般社団法人 Think the Earth

・未来教育デザイン Confeito)ほか

対 象:高校生、高校教員、本学学生

受講料:無料

手話入門講座/手話ステップアップ講座



講 師:渋谷区登録手話通訳者

対 象:小学生以上(小学生は保護者同伴に限ります)

受講料:一般2,000円、大学生以下無料

赤十字ベーシックライフサポーター養成コース



講 師:日本赤十字社 対 象:一般、大学生

<mark>受講料</mark>:1,500円(本学学生割引有り)



グローバル共生研究所は、大きく分けて3つの役割を担っています。1つ目は教育で、授業科目の総合現代教養科目に「グローバル共生」と冠した11科目を提供しています。また、一般社会人と学生を対象として「グローバル共生セミナー」の連続講座を開講。もう1つは研究活動で4号館1階の展示・ワーショップスペースBE*hiveでその成果を展示しています。最後に、研究所のスペースをNGOやNPO、国連機関などの活動に利用していただくとともに、共催等により社会のさまざまな課題をテーマとした講演会「グローバル共生講座」を開講、学生が参加する機会を提供しています。

これまで「難民・避難民」をテーマに展示していた BE*hive は、4 月から今後二年間のテーマが「気候変動」に変わります。最初の半年間は、ファッションと気候変動の関係を分かりやすく展示します。この展示を象徴するオブジェを、学生の皆さんから事前にお預かりした「使わないけどまだまだ使える衣服」を使って学生とデザイナーが共同で作ります。どんな作品になるのか、私たちも楽しみにしています。

グローバル共生セミナーとして、SDGs に関する 講座、手話講座、日本赤十字社によるベーシックラ イフサポーター養成コース、そしてインドネシア語、 ベンガル語講座などを開講します。他ではあまり見 られないユニークな講座が中心です。聖心の一員と して、ぜひ参加ください。

グローバル共生研究所所長 大橋 正明

ベンガル語講座 (入門・初級コース/ステップアップコース)



講師: 奥田 由香

(東京外国語大学非常勤講師)

受講料:一般10,000円、大学生7,000円

(本学学生割引有り)

インドネシア語入門講座



講 師: KUSHAJATIE Ajiek (クスハヤティアイ)

(上智大学非常勤講師)

受講料:一般10,000円、大学生7,000円

(本学学生割引有り)

- お申込み、各講座のくわしい内容について

グローバル共生研究所のウェブサイトを ごらんください。

※申込みはWEBで受け付けます。





2016年5月にスタートした、新学寮への建替工事は、2019年1月に中央棟が完成したことで、3棟構成の建物が揃いました。

中央棟の食堂は、4月からは一般学生や教職 員の利用も可能です。

新学寮の特徴である8つの個室とリビングで 構成されたユニット(ハウス)での生活の様子を 学寮生に聞きました。



一新しい寮での生活について聞かせてください。

松本 なにより安心感があります。セキュリティ がしっかりしていますし、寮母さんが、常に 声かけしてくださるので心強いです。

田口 いまの寮は、「家」という感覚です。以前は、 自分の部屋と両隣の人ぐらいしか接点があ りませんでした。同じユニット(ハウス)の 人たちとは家族という感じです。

松本 本当にそうです。買い物してきたものをシェアしたり、試験前に集まって勉強したりしています。

谷口 他学年の人と一緒なので、課外活動の相談 や、学科の話を聞くことができるのはうれし いですね。

一話をするきっかけは?

田口 リビングに集まって、ピザパーティやたこ 焼きパーティをして、親睦を深めています。

葛西 好きなアーティストの DVD を一緒に鑑賞 しようと声をかけたりします。

谷口 私もそうです。各部屋をノックして、声掛けします(笑)。

出河 テレビはリビングにしかないので、一緒に 観たりもしています。

葛西 ただ、ハウスによって交流の深さに違いは あるようです。

谷口 それぞれなのでしょうが、上級生が積極的 にならないと難しいところがあるかもしれませんね。

一デュパックさんにお聞きします。留学生にとって、寮での生活はいかがですか?

デュパック 留学前、日本に行ったら自分から積極的にコミュニケーションをとるよう言われました。でも寮に着いたとたん、同じハウスの学生たちが私を囲んで、話しかけてきてくれたので、あっという間にとけこむことができました。自分の国(フランス)では、どちらかというと個々の時間、生活を優先するのですが、日本では、"共に生きる"ということを大切にしているように感じています。ファミリー的な関係はわたしにとってマイナスではありません。

―中央棟ができました。いかがですか?

葛西 早速、試験前に徹夜しました(笑)。広く て解放感があるので、集中できます。みんな 使っています。

一生活をする上でのルールはありますか?

Ⅲ□ リビングに私物を置かないことや、掃除当番を決めています。

谷口 私はリビングで植物を育てています。

葛西 そのへんはお互い許容しながら(笑)。

一ほかに係はありますか?

葛西 わたしはイベント係です。中央棟ができたので、これから積極的に皆で楽しめるイベントを考えていきたいです。

田口 せっかく留学生がいるので、語学サロン や、中央棟の大スクリーンで映画会とか、ぜ ひやってみたいですね。

葛西 イベント係になってください(笑)。

田口 考えておきます (笑)。

一楽しい雰囲気がとても伝わってきました。お話ありがとうございました。

第217号 (11) http://www.u-sacred-heart.ac.jp

新学寮 中央棟完成



祝 月 別 23

式日

学寮のもみじ寮とさくら寮の間に、ガラス張りでトンガリ 屋根が印象的な建物ができあがりました。中央棟(食堂棟) です。これで、学寮の建物が勢揃いしたことになります。寮 生にとって、いよいよ新学寮のフルオープン。4月から、こ こで寮生に月曜から金曜までの朝夕の食事が提供されます。 それだけでなく、昼の時間には全学に開かれて、軽食と飲み 物を提供するカフェともなる。聖心の新しいアピールスポッ トの完成です。

というわけで、1月23日、静神父の司式のもと、理事長や 学長始め大学関係者、施工関係者、学寮生の出席をえて、祝 別式(竣工式)が厳かにして温かく執り行われました。寮生 によるバイオリン演奏が花を添えて。

残された建物の撤去と、物干しスペースの増設など残余の 工事がまだ夏頃まで続きますが、新学寮は4月からの入寮生 を迎え、新たなるスタートです。一度、覗いてみませんか?

> 学生担当副学長 川津 誠

本学学生、学内関係者以外のご利用については確定次第、大学公式 WEB サイト にてご案内いたします。





静一志神父による司式



寮生によるバイオリン演奏

